猿投地域の変遷

Sanage

正面に見える猿投山に端を発する籠川

猿投地域の概要

猿投のシンボル「猿投山」のお膝元である猿投地域。明治22年の6村合併（猿投・加納・舞木・本徳・乙部・亀首）後は広沢村と呼ばれていた。明治39年に広沢村、富貴下村（現在の石野）、上郷村（現在の猿投台・井郷）が合併して猿投村が誕生。昭和28年に町制施行し、同30年に石野村と保見村を編入。同42年に豊田市へ合併した。現在の猿投地域は次の8自治区で構成されている。《猿投、加納町、舞木町、本徳町、乙部、亀首町、さなげ台、乙部ケ丘第一》

「猿投」という不思議な名の由来には諸説があり、おもしろい話もある。第十二代景行（けいこう）天皇が伊勢国へ行幸した際、可愛がっていた猿がいたずらを重ねたため、怒ってその猿を海に投げ捨て、その猿が鷲取山に隠れ住んだことから、この山を猿投山と呼ぶようになったという伝説だ。

また、景行天皇は第一子の大碓命（おおうすのみこと＝日本武尊の双子の兄）に東征を命じたが、大碓命はこれを拒んで美濃国に封じられ、その後訪れた猿投山でヘビに噛まれて亡くなったという伝説もある。猿投神社の祭神はこの大碓命であり、山上の西の宮の隣に墓所もある。いろいろな想像ができておもしろい。

秋の大祭に棒の手が奉納される猿投神社

猿投神社の本社総門前のほか
舞木町にも建つ一之鳥居

美しい風景が広がる舞木町のモモ畑

産業の発展

猿投地域にはかつて、猿投山麓に広がる耐火粘土や珪砂（けいしゃ）の一次加工産業として、広沢川筋や猿投川筋に数多くのトロミル水車が回っていた。これは猿投山で採掘したサバ土（花崗岩の風化した土）をドラム缶のような大きな筒に入れ、玉石と一緒に水車の回転を利用しながら砕いて陶土をつくる設備のこと。作られた陶土は瀬戸の陶器の原料として使用されていた。トロミル水車は大正の初めごろに導入され数多くあったが、昭和40年代に入ると一つ一つその姿を消していった。現在も動いているのは観光用に復元された一基のみだ。

農業では、猿投のモモとナシは県内有数のブランドになっている。もともとはカキの栽培が盛んだったが、昭和34年の伊勢湾台風で大きな被害に遭い、ほとんどの農家がモモやナシの栽培に転換した。猿投山の麓の土壌は赤土で保水性もあり、果樹の栽培に向いているという。とりわけ舞木町は県内でも有数の果樹産地で、春のモモの花期にはピンクと白の美しい風景が広がる。平成15年には舞木町集落センターの隣に展望台が建設され、ピンク色の絶景が楽しめる。

工業ではトヨタ自動車が飛躍的に発展した昭和40年代に入ると、猿投にもトヨタ紡織、林テレンプ、トヨタT＆S建設などの企業が誘致され、それに伴い多くの関連企業が工場を建設して発展した。しかし、藤岡地区にもトヨタ関連の工場が進出したこともあり、国道419号が朝夕に大渋滞するという課題も生んだ。

品質は折り紙つきの猿投のモモとナシ

かつて陶土原料を作っていたトロミル水車（復元）

自動車関連の事業所と背後にそびえる猿投山

猿投地域の変遷

Sanage

約1,100世帯が暮らす乙部ケ丘団地（上）と、約500世帯のさなげ台団地（下）

広沢川の川床で見られる
菊の花弁のような花崗岩
「菊石」

マレットゴルフが楽しめる籠川の河川敷

棒の手に関する資料の展示館や
グラウンドなどを備えた棒の手ふれあい広場

7世紀後半の寺院の跡と考えられる舞木廃寺塔跡

約1400年前につくられた
この地方の豪族の墓、
池田一号墳

豊田市街地が一望できる猿投山観光展望台

天然のラドン泉が湧出する猿投温泉

観光

猿投温泉は昭和40年代に近在の人のための湯治場として開設。本格操業が始まり、昭和61年に宿泊施設の金泉閣が新築された。泉質が全国的にも珍しい単純弱放射能泉（ラドン泉）であることから「奇跡の温泉」とも言われており、人気が高い。

猿投山は標高629mと軽登山には手頃で、東海自然歩道として整備もされているので、尾張方面からも多くの人が押し寄せている。利用過多のため、登山道が荒れてしまっているのが大きな課題だ。なお地元の猿投中学校では昭和55年から毎年、猿投山の景観を守るための美化登山を続け、ガードレール等もきれいに磨いてくれている。

猿投中学校が昭和55年から
続けている猿投山の美化登山

交通の発展

昭和47年に猿投グリーンロードが開通し、猿投に3つのインターチェンジ（加納・猿投・猿投東）ができて名古屋方面への交通の便が良くなった。また平成17年には東海環状自動車の豊田藤岡インターチェンジが開設され、道路交通は飛躍的に便利になった。

八草と力石間を結ぶ猿投グリーンロード

Sanagedai

猿投台

写　真
猿投台地域のみなさん
猿投台交流館にて
平成29(2017).11.5

猿投台地域の変遷

Sanagedai

国道153号の平戸橋と波岩

猿投台地域の概要

猿投台地域を構成する青木小学校区と西広瀬小学校区は、それぞれ離れた位置にある珍しい学区編成となっている。現在、次の11自治区で構成されている。《平戸橋、花本、荒井、青木台、平戸橋一区、平戸橋二区、中越戸、下越戸、枝下町、西広瀬町、青木》

青木小学校を中心とする標高50～100mの台地は、かつては猿投村越戸字青木原と呼ばれたやせた土地だったが、戦時中の食糧増産が契機となり、疎開者と戦後の入植者によって戦後急速に開拓された。昭和45年の市街化区域・調整区域の線引きによる土地利用変更に伴い、全国各地からの移住で世帯数が急増した。

猿投台中学校は昭和23年に猿投村立南部中学校として開校し、同42年の豊田市への合併で現在の名称に変更された。昭和61年には井郷中学校が猿投台中学校から分離し開校している。

平戸橋町の一帯は、かつて観光地として栄えた。昭和2年に新愛知新聞が愛知新十名所の第6位に選出した勘八峡をひかえ、大正から昭和時代初期にかけては鵜飼い船や遊覧船も行き交っていた。昭和4年の越戸ダム完成で勘八峡の風景は姿を消したが、周辺の前田公園などを含め、桜の名所として昭和30年頃まで人気が続いた。今では、かつての観光地の面影もないが、昭和58年にオープンした豊田市民芸館が緑豊かな落ち着いた雰囲気の中にあり、寂れていた前田公園も近年は地元愛護会の手で整備されている。

勘八水管橋と越戸ダム

マレットゴルフも楽しめる前田公園

落ち着いた雰囲気の民芸館（左）と、緑豊かな民芸の森内にある青隼居（右）

アユ料理を堪能する人たちで毎年にぎわう広瀬やな

奉納相撲が開かれる胸形神社

矢作川の小さな見張り番

矢作川の広瀬やなは平成16年の三河線廃線の影響が大きかったものの、今もなお竹を使った昔ながらの伝統工法で毎年架けられている。県内外からのアユ釣り客も多い地域だ。

猿投町が豊田市へ合併した昭和42年当時、矢作川はすさまじい水質汚濁の時代の真っ只中だった。藤岡方面の鉱山が垂れ流す水で川は白濁し、昭和40年頃から始まった山砂利の採取が拍車をかけて黄土色に変わった。

西広瀬小学校の児童たちが「水遊びのできるきれいな川にしよう」と、透視度による水質調査を始めたのは昭和51年。この活動は流域住民の共感を呼び、上流の乱開発を防止して清流を呼び戻すきっかけとなった。「矢作川の小さな見張り番」として全国的にも有名になり、数々の表彰を受けている。近年では児童の減少による負担の増加に対して、地域住民が協力者としてこの活動を支えている。平成29年7月29日には調査開始から連続1万5千日を迎え、現在も毎日続けられている。

西広瀬小児童が昭和51年から続けている
矢作川と飯野川の水質調査

猿投台地域の変遷
Sanagedai

約1300年前に創建された灰宝神社（上）と、
地元に多大な貢献を果たした前田栄次郎の像（左）

枝下用水と名鉄三河線

桜並木が続く平戸橋いこいの広場の散策路

横穴式の石室が残る馬場瀬古墳群のうちの一つ

立派な松の木が並ぶ青木小学校北側の歩道

自動車関連の事業所が多い西広瀬工業団地

多様な事業所が入る花本産業団地

産業の発展

昭和43年に青木町へ東海ガスケットが移転してきたころから、猿投地区全体に自動車関連工業の立地が増えてきた。昭和62年には西広瀬工業団地が完成し、平成24年に拡張された。現在、自動車部品製造の企業を中心に9事業所が稼働している。また平成12年には花本産業団地が完成し、国道419号や現在建設中の国道153号豊田北バイパスの利便性を生かして、製造業や運輸業、サービス業などの10事業所が入っている。現在も拡張計画が進められている。

交通の発展

昭和47年に猿投グリーンロードが開通し、名古屋方面への交通の便が格段に良くなった。平成3年には平成記念橋が開通している。

平成17年には東海環状自動車道の豊田勘八インターチェンジが開設され、この地域の道路交通は飛躍的に便利になった。また同インターチェンジから矢作川を渡って豊田外環状線の一部を構成することになる国道153号豊田北バイパスの工事も現在進んでいる。矢作川を渡る新橋「平戸大橋」は2019年には完成する。

このように道路網が発達する一方で、鉄道は平成16年に名鉄三河線の猿投駅～西中金駅間8・6㎞が廃線となり、沿線地域の発展のブレーキになった。

猿投ダンプ事故

この地域の交通を語るうえで忘れてはいけないのが、昭和41年12月に越戸町の国道153号で発生した「猿投ダンプ事故」だ。居眠り運転のダンプカーが集団登園中の越戸保育園児の列に突っ込み、死者11人、重軽傷者22人の大惨事になった。この事故は全国に報道され、交通事故防止は最も切実なものとして取り組まれるようになっていった。当地域でも語り継いでいくべき教訓となっている。

名鉄三河線・平戸橋駅

昭和41年に発生したダンプ事故の現場

Homi

保　見

写　真
保見地域のみなさん
保見交流館にて
平成29(2017).11.26

保見地域の変遷

Homi

愛知環状鉄道の保見駅（上）・貝津駅（右下）と、北にそびえる猿投山

保見地域の概要

「保見」の名称は、明治39年に「伊保村」と「橋見村」が合併して「保見村」として生まれた。その後、保見村は昭和30年に西加茂郡猿投町へ合併し、さらに同42年に豊田市へ合併して豊田市保見地域となった。現在、次の13自治区で構成されている。《広幡町、八草、大畑、篠原、田籾町、保見町、東保見町、貝津町、伊保町、保見緑苑、保見ケ丘六区、県営保見、公団保見ケ丘》

なお、保見地域の中心部である「豊田市保見町」の町名は合併当時にはなく、「豊田市大字上伊保」だった。町名変更が検討された際に、駅名が「保見駅」で、中学校名も「保見中学校」であること、また当時計画されていた団地名が「保見団地」であること等から、地区住民の多くが改名に賛成し、昭和45年に「豊田市保見町」が誕生している。

田んぼの中を高架軌道が通る愛知環状鉄道（四郷～貝津駅間）

愛知環状鉄道の保見駅に留置されている車掌車

多様な事業所が入る篠原工業団地（愛称グリーンテクノピア）

産業の発展

保見地域には鉱山が多く、大正末期から昭和初期にかけては藤岡や猿投と並び、良質なサバ土（真砂土）の産地として知られていた。陶器の土の利用法の変化でサバ土は掘られなくなったものの、ガラスの原料の珪砂（けいしゃ）や窯業の耐火原料の木節粘土がこれにとって代わり、引き続き鉱業は栄えて現在まで続いている。

工業では豊田市が昭和58年に篠原工業団地（グリーンテクノピア）の造成を始めた。この工業団地は自動車産業を中心とする既存工業の拡大を豊田市内で受け止め、工業基盤の強化を図るとともに、工業構造の多角化を目指して造られた。現在、製造業や運送業など16事業所が入っている。

ゴルフ場は昭和39年に「東名古屋カントリークラブ」と「さなげカントリークラブ」が開業。同51年には名古屋広幡ゴルフコースも開業した。また篠原町には日本最大級の「名古屋グリーンテニスクラブ」も昭和48年にオープンしている。

愛知環状鉄道と愛知高速交通（リニモ）の八草駅（左）と、駅付近を通る猿投グリーンロード（右）

交通

昭和47年に猿投グリーンロードが開通し、八草町から名古屋や足助方面への交通がたいへん便利になった。鉄道では昭和54年に名鉄豊田線が開通。同63年には保見地域を南北に縦断する愛知環状鉄道が開通し、八草・篠原・保見の3駅ができて名古屋、岡崎方面への便が良くなった。平成17年には中京大学近くに貝津駅も開業した。

同年には隣接の長久手・瀬戸市で国際博覧会「愛・地球博」が盛大に開催され、それに合わせて愛知高速交通（リニモ）が開通した。八草駅は愛知環状鉄道とリニモの乗換駅となり、名古屋市営地下鉄の藤が丘駅とも結ばれて、保見地域の鉄道交通の利便性はさらに向上した。

このように八草町は豊田市の北の玄関口であり、今後の発展が期待されているが、一方で道路整備は不十分なままになっている。保見地域を南北に縦断する国道155号は朝夕ラッシュ時の交通渋滞がひどく、まちづくりの大きな課題になっている。

保見地域の変遷

Homi

ものづくりを教育の柱とする愛知工業大学（上）と、学術とスポーツの調和をめざす中京大学（右下）

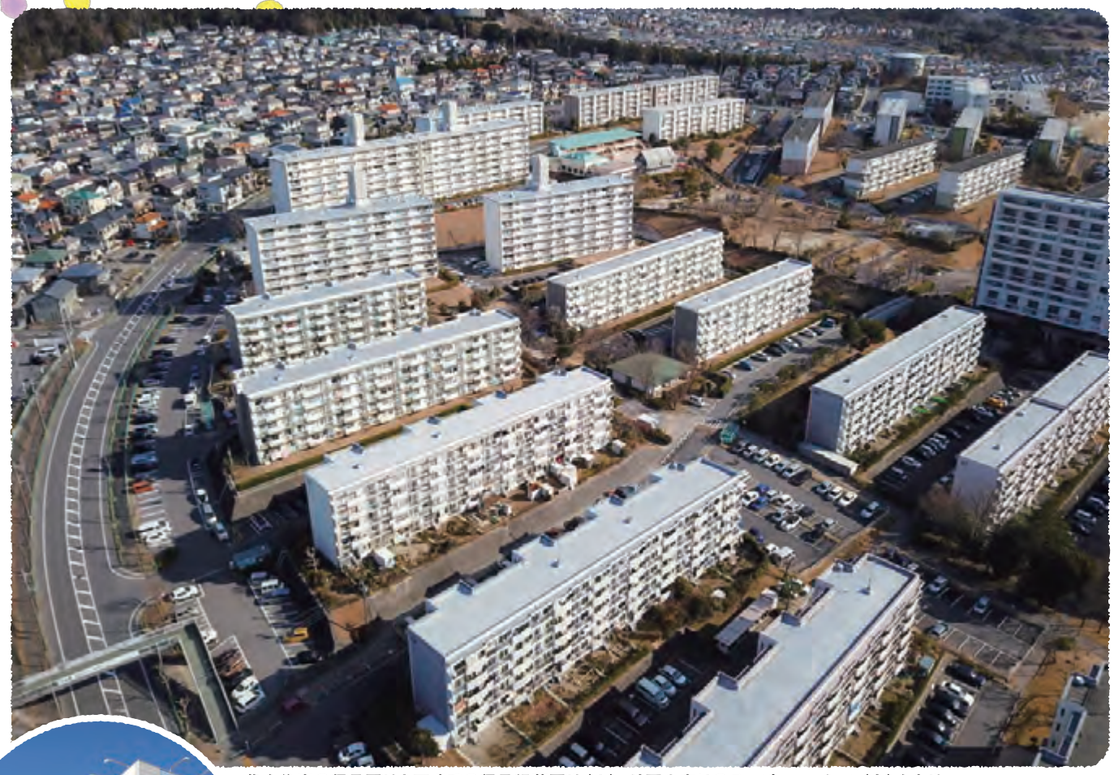
愛知工業大学の東に位置する富瀬池
〈別名、椀貸（わんかし）池〉

大学

八草町では昭和41年に愛知工業大学が開校し、付近に学生の下宿や商店ができて地域が大きく発展した。また貝津町には昭和46年に中京大学豊田キャンパスができて体育学部（現在のスポーツ科学部）が移転。全国から体育教師の卵が集まるとともに、数々の有名アスリートを輩出してきた。平成9年には中部海外技術者研修センターも開館して、貝津町では教授、職員、学生、海外技術研修生との交流により新しい文化が吹き込まれている。

シラタマホシクサとモウセンゴケが
自生する伊保湿地

鎮守の森に囲まれた射穂（いぼ）神社



集合住宅の保見団地と戸建ての保見緑苑団地（上）。外国人向けのスーパーマーケット（左）も立地

保見団地

保見団地の造成は昭和47年に始まった。この場所はもともと東保見町と保見町の共有地で、工場にするか住宅にするかとずいぶん話し合われた。一時はトヨタ自動車の住宅やゴルフ場の話もあったが、最終的に住宅公団、愛知県、名鉄に売却することになった。

昭和50年の分譲の開始当初は交通の便も悪く、入居者が少なくて閑散としていたが、昭和54年に名鉄豊田線が開通してからは緑の多い住宅地として人口が急増した。さらに平成2年の入国管理法の改正とバブル景気が弾みとなって、派遣会社の社宅として外国人の入居が始まり、ブラジル人を中心とした外国人の多い団地として全国的にも有名になっていった。外国人との上手な共存が課題となっている。

東保見町では約60戸の住宅を建築中

各地区の変遷、学区の説明

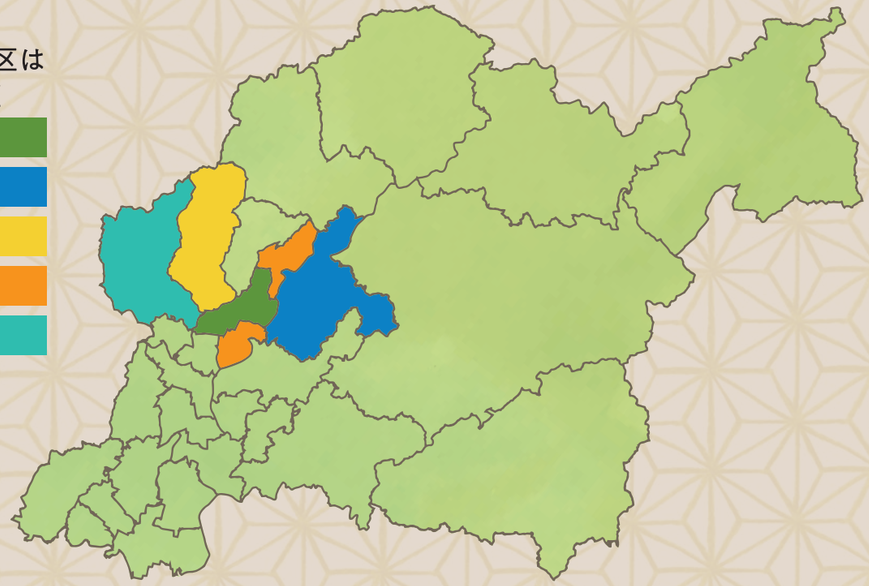
昭和42年に豊田市と合併するまでの町村の変遷

明治22(1889).10.1施行	明治39(1906).7.1合併		昭和30(1955).3.1合併	昭和42(1967).4.1合併
四谷村(一部高橋村へ) 七重村 石下瀬村 中野村	石野村(一部高橋村へ)		猿投町	豊田市
富貴下村(一部藤岡村へ) 広沢村 上郷村	猿投村	昭和28.4.1(1953)町制 猿投町		
橋見村 伊保村	保見村			

現在の猿投地区は
5つの中学校区

- 井郷
- 石野
- 猿投
- 猿投台
- 保見

で構成される。



旧猿投町の区域で、現在は猿投５地区以外に属する７つの自治区

上原自治区	浄水町自治区	大清水自治区	伊保原自治区	向山自治区	手呂町自治区	山中町自治区
上原町	浄水町	大清水町		伊保町向山	手呂町	山中町
梅坪台中学校区	浄水中学校区				高橋中学校区	
昭和30年の合併前は						
猿投町	保見村				石野村	

猿投町役場（現在の豊田市役所猿投支所）

The process of history

合併50年のあゆみ

50th sanage The process of history

猿投町の合併前史

西部出張所（現在の豊田市役所保見出張所）

明治11年 1878年12月

力石村、東枝下村、東広瀬村が合併し石下瀬村となる

明治22年 1889年10月

町村制の施行により50村から9か村へ
四谷村……(元山中村、岩滝村※、矢並村※、池田村※)※印の3村は高橋村へ
七重村……(寺谷下村、手呂村、成合村、千鳥村、上鷹見村、下鷹見村、小呂村)
石下瀬村…(国附村、小峯村、石下瀬村)
中野村……(椿村、室村、中金村、野口村、小白見村、中切村、山路村)
富貴下村…(西枝下村、西広瀬村、富田村、藤沢村、押沢村、松嶺村、御作村※、上川口村※、下川口村※)※印の3村は藤岡村へ
広沢村……(猿投村、加納村、舞木村、本徳村、乙部村、亀首村)
上郷村……(四郷村、花本村、荒井村、越戸村、御船村)
橋見村……(大畑村、八草村、西広見村、篠原村)
伊保村……(田籾村、上伊保村、伊保堂村、殿貝津村、下伊保村)

明治39年 1906年7月

町村合併により、9か村から
石野村、猿投村、保見村の3村へ

昭和28年 1953年4月

猿投町制施行

昭和30年 1955年3月

猿投町、石野村、保見村が合併し、
新たな「猿投町」が誕生
（※3町村の対等合併）

東部出張所（現在の豊田市役所石野出張所）

Sanage 50years History

猿投地区 50年の記録

since 1967

昭和42年～46年代

1967～1971年

A 猿投町の閉庁式

式典であいさつする、猿投町の螺澤町長

B 豊田市猿投町合併祝賀式

祝賀式の会場となった市民センター

B 豊田市猿投町合併祝賀式

合併祝賀式で固い握手を交わす螺澤町長と佐藤市長（手前）

1967 昭和42年

- 3月　猿投町の閉庁式 A
- 4月　豊田市と猿投町が合併
  - 猿投町役場が豊田市役所猿投支所に（大字四郷字東畑98）
  - 猿投町役場西部出張所が豊田市役所上伊保出張所に（大字上伊保字清水尻53）
  - 猿投町役場東部出張所が豊田市役所力石出張所に（大字力石字井上119-2）
- 12月　豊田市猿投町合併祝賀式 B
  - 越戸保育園（現在の越戸こども園）前に歩道橋完成、渡り初め式 C
  - 「交通安全誓いの碑」が完成、除幕式
  - 越戸保育園で交通事故慰霊祭 D

1968 昭和43年

- 5月　猿投グリーンロード着工 E
- 8月　「猿投町誌」発刊

1970 昭和45年

- 3月　旧猿投町に新たな町名を設定
  - 上伊保出張所が保見出張所に名称変更
  - 力石出張所が石野出張所に名称変更
- 4月　上鷹見保育園（現在の上鷹見こども園）が開園
- 6月　県立老人福祉館が開館（勘八町中根）（現在は廃止）

1971 昭和46年

- 1月　大井橋の架け替え工事が完了、開通式（保見町） F
- 4月　中京大学体育学部が豊田キャンパスに移転（貝津町）
- 12月　飯野川中橋が完成、竣工式（西広瀬町）

痛ましい事故 教訓に

C 歩道橋完成、渡り初め式（越戸保育園前）

昭和41年12月15日の朝、集団登園中の越戸保育園児の列にダンプカーが突入し、園児10名、保育師1名が亡くなる大惨事となった。翌年、現場に歩道橋が完成した。

D 越戸保育園で交通事故慰霊祭

交通安全誓いの碑に向かい手を合わせる人たち

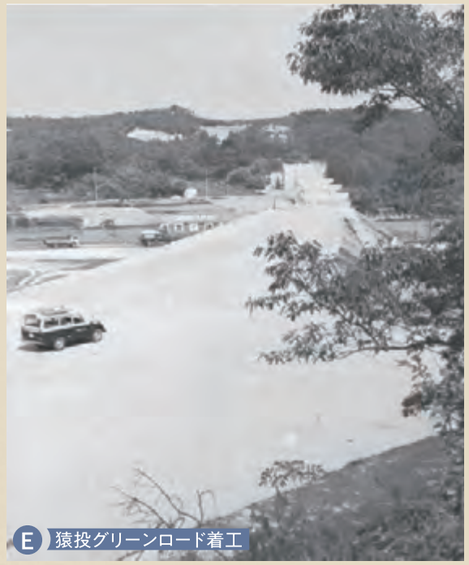
D 交通安全誓いの碑完成

亡き友の面影に「交通事故ゼロ」の願いを込めて

F 開通式典でテープカットする関係者

F 大井橋の架け替え工事が完了

大井橋の開通式典のあと、続々と橋を渡る乗用車やダンプカー


E 猿投グリーンロード着工

愛知県が名古屋市東部郊外の都市化と三河山間部の開発を目的に計画した「猿投グリーンロード」が着工（写真は八草インターチェンジ付近）